令和８年（2026 年）11 月 26 日

保護者の皆様へ

令和8年度　全国学力･学習状況調査　本校の状況について

札幌市立東苗穂小学校
校　長　　坂地　敦志

初冬の候、保護者の皆様には益々御健勝のこととお喜び申し上げます。また、日頃より本校の教育活動に対しまして、御理解と御協力をいただき感謝申し上げます。

さて、今年４月に実施しました「令和８年度全国学力・学習状況調査」（６年生が調査対象）の本校の状況についてお知らせいたします。

札幌市では、札幌市全体の児童の学習状況を把握し、それを各学校における指導方法などの工夫改善に生かすことを目的として、この調査に参加しています。本校でも、この調査結果を参考にし、これからの教育活動に生かしていきたいと考えています。

※ 実施教科は、国語・算数の２教科です。本調査の結果については、お子様の「学ぶ力」の一側面であることに御留意ください。

○国語について

本校の概要	今回の調査における課題	改善の方向
「言葉の特徴や使い方に関する事項」 ▽全国平均に比べ、下回っている。	「言葉の特徴や使い方に関する事項」 ・漢字を文の中で正しく使うことができるかどうか。	「言葉の特徴や使い方に関する事項」 ○漢字の習熟と漢字が単語や文章の文脈の中でどのように使われているかを理解する学習の継続。
「情報の扱い方に関する事項」 ▽全国平均に比べ、下回っている。	「情報の扱い方に関する事項」 ・情報と情報との関係付けの仕方、図などによる語句と語句との関係の表し方を理解し使う。	「情報の扱い方に関する事項」 ○目的に応じて必要だと判断した複数の語句を図示するなどし、語句と語句の関係を整理する学習の充実。
「話すこと・聞くこと」 ▽全国平均に比べ、下回っている。	「話すこと・聞くこと」 ・相手に伝わるように、理由や事例などを挙げながら、話の中心が明確になるように話の構成を考える。	「話すこと・聞くこと」 ○接続語の用途を理解して効果的に使用するなど、聞き手が理解しやすいように情報のつながりを整理して話す学習活動の充実。
「書くこと」 ▽・全国平均と比べ、下回っている。	「書くこと」 ・筋道の通った文章となる様に、文章全体の構成や展開を考える。	「書くこと」 ○書く前に『結論・理由・具体例』の構成を意識して、基本の型とつなぎ言葉（接続語）を用いて論理的に表現する習慣を、日々の書く活動を通して全学年で系統的に定着させる。
「読むこと」 ▽・全国平均に比べ、下回っている。	「読むこと」 ・目的に応じて、必要な情報を見付けることができる。	「読むこと」 ○読む目的（何のために・何を探すか）を明確にしてから資料に向き合い、キーワードや見出し・図表に着目して必要な情報を取り出す指導を、全教科・全学年で系統的に行う。

○算数について

本校の概要	今回の調査における課題	改善の方向
「数と計算」 ▽全国平均に比べ、下回っている。	**「数と計算」** ・四捨五入し概数として表す ・小数の減法 ・異分母の分数の大小を判断し、その理由を数や言葉を用いて記述すること。	**「数と計算」** ○数直線や位取り表を用いて数の大きさや位の仕組みを視覚的に捉えさせ、四捨五入する位の可視化や小数点の位置揃えを徹底した反復指導を全学年で継続的に行う。 ○図や数直線を用いて数の大きさを視覚的に比較させた上で通分や基準となる数との比較・まとめの型を用いて数学的に記述する活動を日常の授業に位置づける。
「図形」 ▽全国平均に比べ、下回っている。	**「図形」** ・立方体の体積の求め方。 ・直方体の箱の形を構成する面について理解する。	**「図形」** ○具体物の操作（箱作りや積み木）を通して構成要素や『単位となる大きさのいくつ分』を実感させ、見取り図や展開図と立体を頭の中で関連づける指導を低学年から系統的に行う。
「測定」 ▽全国平均に比べ下回っている	**「測定」** ・示された情報を基に、数量の関係に着目して、条件に合う時間を求めることができる。	**「測定」** ○複数の資料から『使う条件』を整理した上で、時刻や時間を『数直線』に書き出して視覚的に比較・計算する指導を全学年で系統的に行う。
「変化と関係」 ▽全国平均に比べ下回っている	**「変化と関係」** ・単位量当たりの大きさを求める除法の式の意味を理解し、混み具合について判断できる。 ・割合と比較量から基準量を求める。	**「変化と関係」** ○数量の関係に着目し、図や式などを用いて、ある二つの数量の関係と別の二つの数量の関係との比べ方を考察する学習活動の充実。
「データの活用」 ▽全国平均に比べ、下回っている。	**「データの活用」** ・帯グラフの特徴と用い方を理解し、およその割合を読み取ることができる。	**「データの活用」** ○帯グラフなどの資料から「全体に対する部分の割合」を根拠に読み取り、言葉で説明する活動を全教科で継続的に行う。

○児童質問紙調査について

学習習慣や生活習慣に関するアンケートの結果から、東苗穂小学校のよさと課題が見えてきました。

「あたたかい教育」～先生との高い信頼関係～

「先生は、あなたのよいところを認めてくれていると思いますか？」の質問に「当てはまる」とこたえた児童は**72%にのぼり、全国平均53.4%を大きく上回っています。**（「どちらかといえば、当てはまる」も含めた肯定的回答は**96%**）また、「先生は、授業やテストで間違えたところや、理解していないところについて、分かるまで教えてくれていると思いますか？」の質問に「当てはまる」と答えた児童も**68%にのぼり、全国平均49%を大きく上回っています。**（「どちらかといえば当てはまる」も含めた肯定的回答は**96%**）これは、本校が教育目標に掲げる**「あたたかい教育」**のもと、教職員一人ひとりが子どもの小さな成長や努力を見逃さず価値づけるとともに、つまずきに寄り添いながら丁寧に指導を積み重ねてきた成果の表れと捉えています。子どもたちが「間違えても大丈夫」「先生は自分のことを見てくれている」という安心感の中で学べていることは、本校の大きな強みです。

「まわりを見る子・まわりに気付く子」～安心できる学校～

また、児童の学校生活や思いやりに関する質問でも、大変嬉しい結果が出ています。「学校に行くのは楽しい」という質問では、「当てはまる」と強く肯定した児童が**56%（全国平均48%）**「どちらかといえば当てはまる」を含めた肯定的回答は**92%**に達しました。さらに、「人が困っているときは、進んで助けていますか」という質問に対しては、なんと**100%**の児童が肯定的に回答しています。

これは、本校がめざす子ども像である**「まわりを見る子・まわりに気付く子」**が、日々の学校生活の中で着実に育っている証です。教職員による「あたたかい教育」の中で安心感をもって過ごす子どもたちが、今度は友達や周囲の人へと目を向け、互いを思いやり支え合うことで「学校が楽しい」という実感につながっています。保護者の皆様の日頃からの温かい見守りやご家庭での声かけに深く感謝いたします。今後も、子どもたちの豊かな心と確かな学力の両面を育む教育活動を推進してまいります。

中学校へつながる「自分で学ぶ力」を～学校と家庭のタッグで育てる～

一方で、今後の課題も見えてきました。平日の授業時間以外の勉強時間について、「30分～2時間」と答えた児童は**36%（全国57.4%）**にとどまり、「30分より少ない」と答えた割合は**28%（全国20.2%）**と全国より高い結果となりました。

この背景にあると分析しているのが、「分からないことやくわしく知りたいことがあったときに、自分で学び方を考え、工夫できている」と答えた児童が**64%（全国79.4%）**と低かった点です。つまり、子どもたちは「勉強したくない」のではなく、**「家で一人になったとき、どうやって勉強を進めればよいか（学び方）がまだ十分に身についていない」**ことが、家庭学習の時間の少なさにつながっていると考えられます。卒業後に進学する中学校では、先生に教えてもらうだけでなく、**「自分なりの学び方で自力で学習を進める力」**が何より大切になります。学校では今後、**一人でも学習を進められる『学び方』の指導**にも力を入れてまいります。ご家庭におかれましても、お子様が自信をもって机に向かえるよう、次の2つの点でお力添えをいただけますと幸いです。

一つ目は、**「小さな目標」を一緒に決めること**です。「次の漢字テストで満点をとろう」「今日は算数の復習を1ページやってみよう」など、見通しをもって取り組めるよう背中を押してあげてください。

二つ目は、**自発的に取り組める「環境づくり」**です。「おやつの後に20分だけ」「テレビは消して、リビングの机で」といったように、お子様と相談しながら学習する時間や場所を決めておくことで、自然と机に向かう習慣が身についていきます。

学校とご家庭で手を取り合いながら、子どもたちの「自分で学ぶ力」を温かく育んでいきたいと考えております。ご協力のほど、よろしくお願いいたします。